

資料108-3-3

科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
宇宙開発利用部会
(第108回) 2026.8.26

文部科学省 中長期の宇宙研究開発の推進方策の 取りまとめに向けた骨子について(案)

令和8年8月26日

研究開発局宇宙開発利用課



文部科学省

現状認識①

- ✓ 近年、科学とビジネスの近接化が進む中、宇宙分野に限らず、科学研究と社会実装を一体的に推進していくことの重要性が増しており、基礎研究から社会実装までのプロセスや研究開発投資において、官民が果たすべき役割は多様化
- ✓ 宇宙分野においては、主にJAXAが我が国の研究開発機能を担ってきたところ、令和5年度以降、民間企業・大学等が実施する技術開発に対する支援（SBIR、宇宙戦略基金等）も大幅に拡充してきたが、宇宙開発利用は今なお急速に拡大
- ✓ また、安全保障環境が厳しさと複雑さを一層増す中、経済成長はもとより国家安全保障の観点からも、先端技術の育成・確保が重要となり、宇宙分野を含め、科学技術・イノベーションをめぐる国家間競争は激化
- ✓ こうした状況を踏まえ、今後、官民による先端技術の社会実装に向けた施策の強化や、国家安全保障政策との有機的連携の更なる強化に取り組むと同時に、中核機関として宇宙分野を支え、牽引するJAXAの基盤的役割・機能強化が求められている

現行宇宙基本計画

- 現行宇宙基本計画（令和5年6月閣議決定）においては、
（1）宇宙安全保障の確保、（2）国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現、
（3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造、（4）宇宙活動を支える総合的基盤の強化 が掲げられ、
「宇宙産業を日本経済における成長産業とするため、」「2020年に4.0兆円となっている市場規模を、2030年代の早期に2倍の8.0兆円に拡大」する目標が設定
- 令和8年6月12日の宇宙開発本部において、「来年の「宇宙基本計画」の改定に向けた作業を加速していただきたい。」旨、総理指示あり

日本成長戦略（令和8年7月）

<ロケット・射場>

主な施策

- ロケットの更なる高度化、高頻度打上げ、信頼性向上に向けた技術開発・実証を支援する。
- 民間事業者の持つ技術力を最大限活用し、国内外の需要に対応するためのロケットの高頻度打上げを可能とする射場や試験設備等の整備を支援する。
- 民間主導の取組を促す観点から、設備投資に係る予見性向上等に資するアンカーテナンシーを構築する。

<人工衛星・サービス>

主な施策

- 高精度観測衛星、衛星光通信、燃料補給等の軌道上サービス、高精度測位等の中核技術の開発やサービスの社会実装を支援する。また、安全保障・防災・インフラ点検・農林水産分野等のアンカーテナンシーの強化とそれによる民間資金の呼び込みを行う。
- 国内外の市場獲得のためのサービス実装に向けた地上局等の産業基盤を強化するとともに、国際機関や各国政府との連携も通じ、海外市場開拓を支援する。
- JAXAについて、試験設備の強化や民間共用、民間への技術の橋渡しを行う。

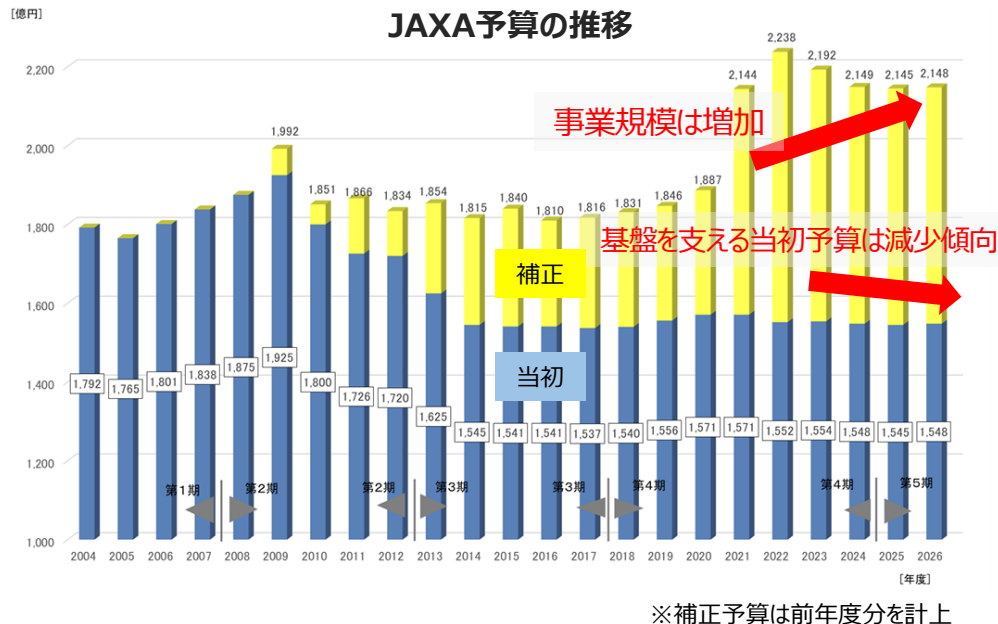
<月面探査・低軌道技術>

主な施策

- 月面着陸機、有人・無人探査機、宇宙ステーション補給機、通信・測位・発電・蓄電・建築・土木・居住施設・モビリティ等の将来的な月面インフラ整備に必要な機器の開発・製造などへの投資を支援する。
- 将来の月面活動を支える月面機器の開発・実証を支援する。

JAXAの役割の拡大

- JAXAの役割は近年大幅に拡大。日米連携のアルテミス計画や宇宙産業の拡大に向けた宇宙戦略基金など内外の情勢変化を受けて新たな業務が急増。これに伴い、**5年前と比較して、事業規模は10%以上の増**
- **安全保障や防災分野におけるJAXAの役割も増大**。準天頂衛星システムや情報収集衛星の開発、宇宙状況監視やデブリ除去技術の推進、災害時の緊急観測、安全保障・防災に係る基盤研究等の多様な役割を果たす
- 現行宇宙基本計画において「宇宙開発の中核機関たるJAXAの役割・機能の強化」を掲げるも、**近年、JAXAの当初予算(運営費交付金等)は減少傾向**
- 物価高騰により実質的予算は目減りしており、射場等の維持管理、データ利用を含めた衛星運用、基盤技術研究等の**基盤的経費の確保が課題**(新規ミッション創出や共通部品の開発等を行う**基盤技術研究の予算も縮減傾向**)



今後の目指すべき姿

官民による先端技術の社会実装に向けた施策の強化

国家安全保障政策との有機的連携の更なる強化

- ◆ 非宇宙分野を含む民間との協調やスタートアップ・エコシステムの構築
- ◆ 研究開発から事業化までのシームレスな展開

- ◆ 研究開発からイノベーションまでの一体的な強化
 - 我が国の自立性確保に直結する宇宙輸送能力の向上
 - 科学・産業力強化や社会課題解決に資する衛星開発
 - フロンティア開拓と国際競争をリードする宇宙科学・探査の推進

- ◆ 国家安全保障への貢献
- ◆ 同盟国・同志国等との国際協力

我が国の宇宙活動を支え、牽引するJAXAの強靱化

役割の整理、技術基盤・人材・共通インフラ・ノウハウの確保・供給、
民間宇宙活動の成長拡大への貢献

今後の取組の方向性①

JAXAの強靱化

- 強みを持つコア技術の維持・強化、国として保持すべき基盤技術・輸送基盤の確保
- JAXAの技術の民間移転の促進（研究開発の早期段階からの利用・運用視点の取り込み等）
- 今後の産業的な発展が期待される宇宙実証の推進
- 組織（特に人的資源）の強化、人材育成（技術継承、高等教育機関との連携やそれに基づく教育研究拠点活動の推進、キャリアパスの構築、異分野人材の参入促進等）
- 試験・研究設備の維持・更新、民間・大学への供用
- 戦略的な発信、広報（社会への重要性の発信、人材呼び込み・育成の観点等）

民間主体の取組との連携強化

- 民間の強みとJAXAの強みの連携、民間とJAXAとの間の人材交流の促進
- 商用化に向けて民間主体の取組を促進すべき部分の検討
- スタートアップ・エコシステムの構築等を通じた民間活力の醸成
- 産業化に向けた予見可能性（市場規模やその達成時期）を高めるための方策の検討

今後の取組の方向性②

官民を挙げた宇宙開発利用の推進

- 官民の多様な主体が関わる研究開発から事業化までの取組をシームレスにつなげる方策の検討
- JAXAの研究開発力を活かした民間・大学等との共創、宇宙実証の機会の拡充
- 民間の予見可能性の向上や民間投資の誘発に必要な制度・インフラ面の課題の整理
- 従来とは異なる研究開発手法の検討と導入（アジャイル型開発等）
- 衛星データの利用・社会実装の促進や、宇宙利用の裾野拡大、社会インフラ活用の推進による、社会・経済システム全体の基盤の強化

国家安全保障・経済安全保障への貢献

- 国内サプライチェーンの強靱化による重要技術・部品の安定確保の推進（経済安全保障推進法の枠組みでの取組）
- 経済安全保障にも資する基盤技術の獲得（経済安全保障重要技術育成プログラム等）
- 防衛ニーズを踏まえた研究開発の推進

国際協力の戦略的な推進

- 我が国の強みを生かしつつ、国際協力で取り組む内容と独自に取り組む内容の整理
- コア技術と輸送・基盤能力の維持・発展による国際協力におけるプレゼンスと交渉力の向上
- NASAやESA等を始め、高い技術力を有する各国の宇宙機関との連携戦略の検討

今後の取組の方向性③

研究開発からイノベーションまでの一体的な強化

(1) 宇宙輸送

- 自立した国家基盤としての宇宙輸送の継続的な維持、基幹ロケットの高度化の推進
- 将来輸送システムに向けた段階的な技術成熟
- 技術開発と制度整備の一体的な推進
- 市場獲得を意識した輸送戦略の検討
- 次期基幹ロケットの役割の再定義とニーズを踏まえた設計の検討

(2) 衛星等

- 公共ミッションと商業利用等のユーザニーズを踏まえた衛星開発、継続的な衛星システム維持、産業競争力強化
- AI活用等によるデータ利用の裾野拡大と社会実装の加速
- 国際競争力強化に向けた実証機会の拡充と事業化の促進
- 地球規模課題の解決や経済安全保障・安全保障への貢献、その基盤ともなる地球科学への貢献に資する衛星開発・運用とデータ利活用の推進
- JAXAで開発した衛星や関連技術の民間企業やユーザ省庁等への橋渡し

今後の取組の方向性④

(3-1) 月面・探査・地球低軌道利用

- 官民協働や国際連携による月面・地球低軌道活動のあり方の検討
- アルテミス計画やポストISS等を踏まえた我が国の戦略的な月面・地球低軌道活動の実現
- 月面や地球低軌道単体ではなく、一体的な推進方策の検討

(3-2) 宇宙科学

- 中長期的視野に立った将来の宇宙科学ミッション構想立案等に当たっての戦略性の向上
- 次世代の科学衛星開発における共通バス化による目標頻度の確保・低コストな宇宙科学ミッション体系への転換
- フロントローディング活動を通じた段階的な宇宙実証を活用した技術成熟度向上と人材育成
- 宇宙科学技術のJAXA全体や産業界への展開する仕組みの構築

部会での各領域に関する検討経緯

	各領域議論の概要	強化すべき事項	主なキーワード
第104回 基盤技術 (R8.4.9)	・JAXAの人的・設備的基盤を強化すべき ・JAXA、大学、企業の役割分担を明確化すべき ・MBSE、MBD等を活用した研究開発の効率化を進めるべき ・人材交流やサプライチェーン強靱化を推進すべき ・実証を通じて国際競争力のある技術を育成すべき	・JAXAを中核とした研究開発基盤の維持・強化 ・デジタル技術活用による開発高度化 ・人材・部品・設備を含む技術基盤全体の確保、サプライチェーン強靱化 ・市場ニーズを踏まえた技術実証機会の拡充、国際競争力のある技術の育成、プレゼンス向上	JAXA強化／DX ／サプライチェーン／実証機会 ／国際競争力
第104回 将来宇宙輸送 (R8.4.9)	・輸送能力は国家の自立性を支える基盤である ・KPI30（年間30機打上げ）の達成後を見据えた目標設定が必要 ・再使用ロケット、往還飛行、有人輸送への発展を見据えるべき ・射場や制度整備も含めた総合戦略が必要 ・基幹ロケットの国際競争力向上を重視すべき ・宇宙ステーションから大型回収（宇宙空間からの帰還）ニーズへの対応を検討すべき	・宇宙輸送を国家基盤として継続的な維持とともに、基幹ロケットの高度化、高頻度打上げを推進 ・将来輸送システムに向けた段階的な技術成熟 ・技術開発と制度整備を一体的に推進 ・市場獲得を意識した輸送戦略の検討 ・次期基幹ロケットの検討においては役割の再定義とニーズを踏まえた設計	輸送自立性／再使用／有人輸送／制度整備
第105回 月面探査・地球低軌道 (R8.4.22)	・月探査は科学のみならず産業化・インフラ形成の視点が必要 ・LEOを月面開発に向けたテストベッドとして活用すべき ・非宇宙企業を含む民間参画を拡大すべき ・市場規模や需要予測を示すべき ・長期的な人材育成を重視すべき	・月探査を産業・経済圏形成の観点から捉えた検討、実証機会提供 ・官民連携による持続可能な月面活動の検討を推進 ・LEOミッション充実による月面への段階的発展戦略 ・民間投資を呼び込むための将来像の提示	月面経済圏／LEO活用／官民連携／市場形成／人材育成
第106回 衛星・軌道上サービス (R8.6.8)	・衛星開発手法発展が必要（アジャイル開発、標準バス） ・衛星開発だけでなくデータ利用を重視すべき ・公共性の高い地球観測ミッション・継続観測機能を維持・発展すべき ・AI等を活用して衛星利用の裾野を拡大すべき ・社会実装を見据えた運用・利用を推進すべき ・軌道上実証機会を増やし国際競争力を高めるべき	・データ利用・サービス創出中心の価値創出モデルへの転換 ・公共ミッションと商業利用の両立による官民ミッションの推進、継続的な地球観測基盤の維持、産業競争力強化 ・AI活用等に利用者層を拡大し、社会実装の加速 ・海外展開を見据えた実証機会の拡充と民間事業化の促進	データ利用／社会実装／AI活用／継続観測／軌道上実証／海外展開／事業化
第107回 宇宙科学 (R8.7.23)	・共通バス化により高頻度・低コスト化を進めるべき ・若手研究者の挑戦機会を拡大すべき ・民間宇宙ステーション等を積極活用すべき ・宇宙科学で得られた成果をJAXA全体へ展開すべき ・実証機会の拡充と技術基盤維持が重要	・中長期的視野に立った将来の宇宙科学ミッション構想立案等に当たっての戦略性の向上 ・共通バス化による目標頻度の確保・低コストな宇宙科学ミッション体系への転換 ・宇宙実証の活用や惑星探査推進による技術成熟度向上と民間や大学他含む若手人材育成 ・宇宙科学技術のJAXA全体や産業界への展開する仕組みの構築 ・戦略的中型ミッション、公募小型ミッションや火星探査等の実現	共通バス／高頻度実証／若手育成／商業インフラ／技術基盤